

社会課題解決で共創

力覚伝送を活用

印タタグループのITサービス会社であるタタ・コンサルタンシー・サービシズ(TCS)と慶應義塾大学発ベンチャーのモーションリブ(株)(川崎市)は、社会課題解決に向けた共創のための覚書を締結したリアルハプティクス(力触覚伝送技術)を活用したソリューションを提供していく。リアルハプティクスは、

現実世界、仮想世界、その両方に存在する対象との接触によって生じる「力加減」「感触」などの力触覚刺激を正確にデータ化して伝送する技術だ。慶應義塾大学新川崎先端研究教育連携スクエアの大西公平特任教授が発明した。「位置制御」「力制御」を同時に達成することで、力触覚刺激をデータ化し、

遠隔地への双方向伝送を実現する。操作者はロボットを介して力触覚刺激をリアルタイムに感じながら、優しく、器用に、繊細な遠隔操作が可能になる。モーションリブはこのリアルハプティクスの事業化を目指し、16年に設立された。一方のTCSは、インド・米国・英国の研究開発拠点やIoT&デジタルエン

ジニアリング部門において、機械学習、ソフトウェアエンジニアリング、プロセスエンジニアリング、IoTやデジタルツインなどの先進的デジタル技術に関する知見を蓄積してきた。

今回の覚書締結を機に、同社は日本法人が18年に開設したパートナーとの共創拠点「TCS Pace Port Tokyo」内に、製造業の顧客に向けた新たな体験型ショールーム「DCEC (Digital Continuity Experience Center)」を増設する。リアルハプティクスのデモンストレーション環境を構築する予定だ。

